



帰
っ
て
き
た
く
な
る

行
っ
て
み
た
く
な
る

東
シ
ナ
海
の
宝
の
ま
ち



阿久根市

2022 阿久根市勢要覧

CONTENTS

- 003-004 市長挨拶
市章・市の花・市の木
アクセス・阿久根市民憲章

あくねの魅力

- 005-006 阿久根大島
007-008 あくねのビーチ
あくねの花・絶景
009-010 阿久根駅・風テラスあくね
011-012 番所丘公園
あくねの七不思議
あくねの温泉

あくねの特産

- 013-014 海の幸
015-016 山の幸
017-018 加工品

あくねの暮らし

- 019-020 商工業
021-022 祭り・イベント
023-024 伝統・教育
025-026 市民活動

あくねの歴史

- 027-028 歴史・あゆみ
029-030 阿久根人物伝
阿久根が生んだ偉人たち

あくねの紹介

- 031-032 公共施設
033-034 行政・議会
035-036 資料

- 037-038 MAP



あくね

帰ってきたくなる
行ってみたいくなる
東シナ海の宝のまち

ごあいさつ



阿久根市長
Mayor of Akune City
西平 良将
Yoshimasa Nishihira

阿久根市は古くから海と陸の交通の要衝として海運業や商業が栄え、先達が築いてきた歴史と文化が、今も脈々と受け継がれています。

また、東シナ海に面した約40キロにも及ぶ美しい海岸線や緑の大地に恵まれ、温暖な気候と相まって新鮮な魚介類や四季折々の農産物が生産されており、「アクネ うまいネ 自然だネ」の統一ブランドで全国に「食のまち阿久根」としての情報発信を行っています。

本市は、昭和27年4月に市制を施行して以来、令和4年でちょうど70年を迎えます。これまでの間、市民の皆様のたゆまぬ努力とふるさとを想う情熱で幾多の困難を乗り越え、今日の発展を築いてまいりました。

しかしながら、現在、人口減少や社会経済状況の変化、科学技術の進展、大規模災害や新型コロナウイルス感染症への対応など、本市を取り巻く環境は大きく変貌しております。このような情勢の中、「帰って来たくなる 行ってみたいくなる 東シナ海の宝のまち あくね」の実現を目指して、『「まちづくり」は「ひとづくり」から』を基本理念に、皆でまちづくりを実行していくことで、新たな道が拓けるものと考え、市民福祉の向上や地域の活性化を図るため、邁進してまいります。

この要覧を通じて、本市をより深く御理解いただき、ふるさと阿久根の更なる発展に、御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。

Akune city has long been a major transportation hub between land and sea, where shipping and commerce flourished. The history and culture of our ancestors has been passed down from generation to generation.

The city is also blessed with land filled with the green of nature and a beautiful coastline that stretches about 40 kilometers facing the East China Sea, which, combined with its mild climate, produces fresh seafood and seasonal agricultural products. "Akune, for lots of nature and tasty food" is our brand tagline created to promote the many varieties of food available in Akune.

The year 2022 will mark exactly 70 years since our city was incorporated in April 1952. Throughout the years, the tireless efforts and passion of our citizens have helped us overcome many difficulties and build our current thriving city.

However, the environment surrounding our city is currently undergoing major changes, such as a declining population, changes in socioeconomic conditions, progress in science and technology, large-scale natural disasters, and dealing with COVID-19.

Even under these circumstances, we are committed to striving towards our slogan, "Akune, a city that people want to come back to." To accomplish this, we carry out city planning alongside our citizens under the basic principle of "city planning starts with people planning." With this effort, we hope to achieve improvements in the welfare and revitalization of our communities.

Through reading this handbook, we hope that you will gain a deeper understanding of our city, and that we will be able to count on your support and cooperation for the further development of our hometown, Akune.



阿久根市は鹿児島県北西部に位置し、高松川河口の阿久根港を中心に古くから海・陸交通の要衝として海運業・商業などが栄えたまちです。北部は激流が渦巻く日本三大急潮のひとつ黒之瀬戸を隔て長島町と接し、東部は出水市、南部は薩摩川内市と接しています。東シナ海に面した約40kmにも及ぶ美しい海岸線や沖合およそ2kmに浮かぶ阿久根大島は、海水浴や釣りのメッカとして知られており、毎年多くの観光客が訪れます。沿岸を洗う黒潮は至る所に亜熱帯の植物を育み、温暖な気候を利用した農業や水産業が盛んです。品質の高い数多くの生鮮品や加工品は、「アクネ うまいネ 自然だネ」の統一ブランドで全国に向けて出荷されており、なかでも特産品の「阿久根ボンタン」は全国有数の生産量を誇ります。

ACCESS

飛行機	鉄道 (JR・おれんじ鉄道)	車
東京 約1時間55分	大阪 約4時間25分	福岡 約3時間40分
名古屋 約50分	博多 約1時間45分	熊本 約2時間20分
福岡 約50分	熊本 約1時間10分	長崎 約4時間40分
	鹿児島 約55分	宮崎 約3時間10分
		鹿児島 約1時間15分

*鹿児島空港からリムジンバス利用 (出水・阿久根行き)

*新幹線を利用した場合の時間

*自動車専用道路を利用した場合の時間

阿久根市民憲章

わたくしたちは、豊かな黒潮に洗われ、
まろやかな文旦をはぐくむ美しい自然と、
誇り高い歴史をもつ郷土阿久根を、更に発展させるために、
市民の規範として、ここに憲章を定めます。

- お互いにあいさつをかわし、みんなに親切をつくします。
- 時間ときまりを守り、住みよいまちをつくります。
- 花や緑を育て、きれいな郷土をつくります。
- すすんで教養を高め、文化のまちをつくります。
- 元気で働き、明るい家庭、豊かなまちをつくります。



市章

1952年(昭和27年) 制定
阿久根市には近年まで多くの鶴が飛来していました。その鶴を形どり、未来へ向けて大きく飛躍する姿をあらわしたのがこの市章であり、市民の融和と躍進を象徴しています。

City Emblem



市の花「石蓼」 つわぶき

2007年(平成19年) 制定
キク科の常緑多年草。市内の至るところに自生し、10月から12月にかけて開花します。

City Flower



市の木「ボンタン」

1972年(昭和47年) 制定
阿久根に漂着した中国商船の船長「謝文旦」の名にちなんで命名されたといわれています。

City Tree

阿久根大島

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介



AKUNE OSHIMA

阿久根大島は、阿久根新港渡船場から船で約10分、約2kmの沖合に浮かぶ周囲4kmの美しい松林におおわれた島です。対岸の海岸線などとともに「県立自然公園」、「日本の名松100選」に指定。島内では野生の鹿と触れあえるほか、海水浴や釣りのメッカとなっており、本市を代表する観光スポットです。また、天気の良い日は甌島や長島、天草まで見渡せます。

Akune Oshima is an island covered with a beautiful pine forest, with a circumference of 4 kilometers and located approximately 2 kilometers offshore. The island is accessible by boat, which takes about 10 minutes from Akune New Port ferry terminal. Coupled with the coastline on the city side, the whole area is designated as both a "Prefectural Natural Park" and as one of the "100 Best Pine Trees in Japan". The island is a mecca for sea bathing and fishing, as well as a habitat for wild deer with which visitors can interact, making it one of top tourist spots in the city. On a clear day, you can also see far islands such as Koshikishima, Nagashima, and Amakusa.



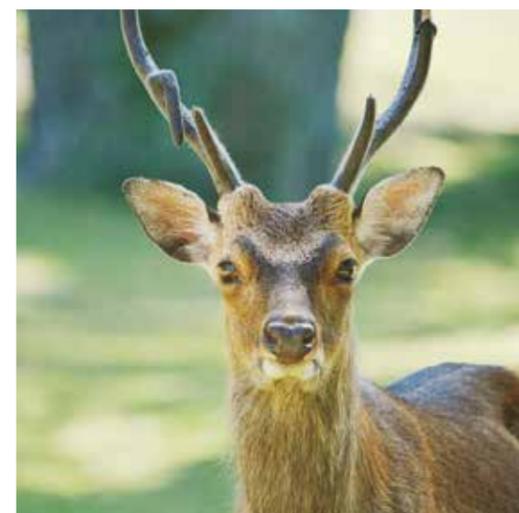
阿久根大島海水浴場（水質：AA）

快水浴場百選



最高ランク「水質AA」の美しい海。夏期には海水浴客で賑わい、ビーチにはシャワー室・トイレ・ロッカールームなどの設備も完備。シュノーケリングや水上バイクなどのマリナクティビティも充実し、各用具の貸出サービスも行っています。

阿久根大島の鹿



島内に生息する鹿は江戸時代の初め（1660年頃）に薩摩藩2代藩主・島津光久が放したことが始まりとされています。明治時代に一時は絶滅してしまいましたが、大正時代になると阿久根村（当時）が再び鹿の棲む島にしようと動きまわります。馬毛島（種子島の近くの小島）から6つがいの鹿を連れてきて放ち、現在に至ります。

阿久根大島公園キャンプ場



バンガローや海の家・キャンプ場も整備されています。思いきり海水浴を楽しんだあとは、島内に宿泊してさらに阿久根大島の自然を満喫。東シナ海に沈む燃えるような夕陽、夜には満天の星も見るすることができます。キャンプ用具やバーベキュー用具のレンタルもあります。



あくねのビーチ Beach

脇本海水浴場

脇本海水浴場 (水質: AA)

県立自然公園指定 / 快水浴場百選

約3km続く遠浅の白い砂浜が広がります。海水浴はもちろんのこと、アウトドアやサーフィンなどを楽しんだりすることもできます。また、5月～8月にかけてウミガメが産卵のために上陸。市民による保護活動も行われています。



大川島海水浴場

県立自然公園指定

雄大な大自然のパノラマが広がる波静かな入江のビーチ。のんびり海水浴を楽しみたいファミリー層や美しい砂浜で散策を楽しみたい方に人気です。海水浴に加え、マリンスポーツや磯釣りなども楽しめます。付近一帯はリアス式の屈曲した海浜地帯になっており、近隣には景勝地の牛之浜海岸もあります。

あくねの花

Flower



ハマジンチョウ

開花時期: 1月～5月頃

潟地区に自生し、約3cmの薄紫色の花を咲かせます。本市は九州本島では唯一の自生地があり、県の天然記念物にも指定されています。



カノコユリ

開花時期: 6月～7月頃

大川地区の線路沿いに約1,000本が植栽されています。もともと自生していた株を近くに住む有志の方々が手入れをして増やし、今では名所として知られています。



黒之瀬戸

日本三大急潮の一つでもある黒之瀬戸は、阿久根市と長島町間の幅約500mの海峡です。渦巻く潮はその昔「隼人の瀬戸」と呼ばれ、「万葉集」にも収録されています。また、黒之瀬戸は万葉集の中で詠まれた最南端の地となっています。

隼人の薩摩の瀬戸を雲居なす遠くも
我は今日見つるかも

長田王

時の天皇の命令で九州に下った長田王がこの地に赴き、薩摩の瀬戸を、私は今日をはるか彼方に眺めていることだなあと、遠い地に来たものだという深い感慨を歌に詠みました。

牛之浜海岸

県指定名勝 県立自然公園指定

東シナ海の荒波が作り上げた景勝地で、県指定名勝に指定されており、奇岩や岩礁の多い美しい海岸。この地を訪れた江戸時代末期の学者・頼山陽は「阿嶋嶺」と題した漢詩を残しています。

「阿嶋嶺」 頼山陽
危礁乱立大瀉間 決皆西南不見山
鷗影低迷帆影没 天連水処是台湾

奇岩怪石が波間に乱れ立っている。目を見張って遠く西南を眺めると、海水が渺茫(びようぼう)として山一つ見えない。ただ鳥の影が水面すれすれに旋回していて、先ほどまで見えていた白帆の影もいつしか水平線の彼方に消えてしまった。天と水が一つに連なっているところ恐らくあの辺りが台湾だろう。



Superb view

あくねの絶景



にぎわい交流館 阿久根駅

肥薩おれんじ鉄道の阿久根駅は、平成26年(2014年)に「にぎわい交流館 阿久根駅」としてリニューアルオープン。昭和24年(1949年)建造の駅舎を残しながら、木材をふんだんに使用したモダンなデザインに全面改修しました。コンセプトは「まちの迎賓館」、「まちの公民館」。デザインは水戸岡鋭治氏。駅舎内ホール(待合所)ではジャズライブや展示イベントなど多彩な催しが行われ、芸術・文化に気軽に触れる場所となっています。また、平成30年(2018年)11月には阿久根をロケ地とした映画「かぞくいる」も制作され、全国的な知名度も高まりつつあります。

Akune Station on the Hisatsu Orange Railway was renovated and reopened as the Bustle Exchange Center Akune Station in 2014. While retaining the original building built in 1949, the station has been completely renovated to accommodate natural wood and a modern design. The concept is a city "guesthouse" and "community center." Mitooka Eiji contributed to the design. The hall/waiting area in the station hosts a variety of events such as live jazz and exhibitions. It is a place where people can freely experience art and culture. In addition, in November 2018, the movie "Our Departures (Original title: Kazokuiru)" was filmed in Akune, which has helped the city increase its recognition nationwide.



Message

阿久根の玄関口であるとともに、阿久根の食材を利用した食堂・カフェや、ホールを活用したイベントなど大きな可能性を持った場所です。駅利用者拡大と可能性拡大を目指して、ジャズライブをはじめとするイベントを企画。鉄道の利用者だけでなく、多くの方に来ていただいています。駅活用の可能性も市民に認知されつつあります。今後も、地元の学校と連携したものなど、楽しい企画でもてなしていきたいです。

株式会社あくねや 徳丸 尚樹さん

阿久根市民交流センター 風テラスあくね

文化芸術及び生涯学習の活動拠点の場として、平成30年(2018年)に新たにオープンした「阿久根市民交流センター」愛称「風テラスあくね」。541席のホールと5室の交流室などで構成されています。

ホール下手花道側には自然光を取り入れられる大きな開口を設け、上手側は2階席へとつながる階段席、2階サイドとフロントにもバルコニー席を設け特色のある構造です。交流室は日常的な利用促進のために、積極的に外光を取り入れ、さまざまな会議やセミナーなどに利用されています。

The Akune Citizen's Exchange Center, also known as Kaze Terrace Akune, was newly opened in 2018 as a central base for cultural arts and lifelong learning activities. It consists of a 541-seat hall and five social activity rooms. Inside the hall, there is a large opening on the left side of the lower seats to let in natural light. To the right, there are stairway seats, which lead up to the balcony, where additional seating is available. Natural light is also utilized in the social activity rooms. Various meetings and seminars are regularly held in these rooms.



あくねの温泉

ひさご旅館



栄屋旅館



ビジネスホテル ロックスイン



きみよし温泉



ビジネスホテル クアドーム



阿久根の温泉の特徴は、沿岸部にあり殆どの泉質が塩化物泉で塩分濃度が高いことから、人々から「塩湯」として親しまれています。またポンタンの地として有名なことから冬の時期（12月下旬～2月下旬）にはポンタンを浮かべる施設もあり、「ポンタン湯」として冬の風物詩となっています。

塩湯やポンタン湯は、血行促進と保温効果によく美人の湯としても知られています。

かごしま・あくね海の駅

阿久根の自然豊かな海を生かしたマリレジャーを楽しむ拠点として、平成28年（2016年）にオープンした「かごしま・あくね海の駅」。国土交通省により、「いつでも、誰でも、気軽に安心して立ち寄り憩うことのできる場所」として登録された海の駅。2隻の停泊が可能で、港湾施設の棧橋にヨットやプレジャーボートを係留して周辺の観光を楽しむことができる海の交流地点です。



サンセットロード

阿久根新港の一角にあるサンセットロード。ボードウォークになっており、海に沈む夕日や阿久根大島などの絶景を見渡すことができます。夕暮れ時のウォーキングなどにも使われ、夕日を見ながらの散歩など、一日をリフレッシュすることができる憩いの場として楽しむことができます。



番所丘公園



市の南西部の丘陵地帯に整備された都市公園。広大な芝生の広場、子供向けの遊具が揃った広場などがあり、季節の花々も楽しめます。さらに1.2kmのゴーカートコース、バタゴルフコース、ローラースケート場などもあり、家族連れにも人気です。阿久根の海や市街地など、全方向を見下ろせるビュースポットでもあります。

あくねの七不思議

黒神岩（くろかみいわ）

海岸線から500m～600m程離れたところに、海岸に見られるような巨大な岩が立ち並んでいます。この岩を黒神岩と呼びますが、岩には貝の化石が付いていることから、昔のあたりが海であった頃の名残と言われています。以前は付近一帯広々とした水田でしたが、現在では公園として整備されています。

佐瀧の洞窟（小瀧崎穴：さがたさきけつ）

東シナ海に突き出た佐瀧半島の中ほどにある洞窟です。入口は狭く、人がようやく屈んで通れるほどですが、中は広くなっており、いくつもの分かれ道が連なっています。昔の穴住居だとも言われ、伝説によると、甕島に続いているとも言われています。

大人（おおひと）の足跡（天狗の足跡）

山下地区の八幡神社前にある大きな石に、長さ60cmほどの足形のくぼみがあり、伝説によると、この地方に住んでいた大人（天狗）が、村人にけしかけられて阿久根大島まで跳ぼうとした時にできた足跡と伝えられています。

隔岡（おかごし）の塩田

縄文海進時（約7000年前）に浸水してきた海水が、その後の海退により干上がってきた塩田と言われています。また、江戸時代初期から、瀧一帯は海岸から遠く離れているにもかかわらず、地底から塩水が湧き、良質の塩がつくれる塩田であり、旅の僧（弘法大師とも言われる）によって製塩法を教えられたと伝説が残っています。現在は瀧区に塩釜神社として祀られています。

岩船（いわふね）※写真は鍋石

その昔、舵が折られた船が折口海岸に流れ着き、そのまま岩になったと伝えられています。現在は打ち寄せた砂で埋没して見ることができません。また、梶折鼻、鍋石、筒田、餅井などは、この岩船伝説に由来した地名と言われています。写真は船に積んであった大鍋が流れ着き、石になったとされる鍋石です。

尻無川（しりなしがわ）

大川地区を流れるこの川は、河口が海岸から砂礫で塞がれ、尻無（＝出口の無い）川と呼び、この地区を尻無地区と呼ぶようになりました。

光礁（ひかるぜ）

戸柱山前の海岸にある大きな岩礁で、不思議な光を発することから、光礁と呼ぶようになったと伝えられています。

「光礁の光る心を 人とはば神のみたまと吾はこたへん」 八田知紀

また、光礁と隣接する五色浜のチャート層は、県本土で最も古い層であり、学術的に貴重なことから、令和2年度に県指定文化財（天然記念物）に指定されています。

★各地の詳細な位置はP38のMAP参照





伊勢えび



日本では高級食材として人気の高い伊勢えび、長いひげと曲がった腰から長寿の象徴として古くから親しまれ、鹿児島県内でもトップクラスの水揚げ量です。旬は秋から春にかけて、甘くてプリプリな刺身や濃厚な味のお味噌汁、焼き物も人気です。

阿久根のアジ



黒之瀬戸海峡からの潮流の影響を受け、身が適度に締まり脂の乗りが良いためほんのり甘みがあり、トロのような舌触りがしてとても美味しいと評判です。

ウニ



九州西南沿岸に広く棲息する味の王様といわれるムラサキウニは、小ぶりながらも旨味と甘味が凝縮されています。

タカエビ



正式名をヒゲナガエビと言い、阿久根市近海の水深200m以上の深海で漁獲される天然えびです。生でも食べられるほどの高鮮度で、とろけるような食感と甘さが特徴です。

きびなご



阿久根市近海でも年間を通じて水揚げされる新鮮な天然きびなごです。春先は産卵時期で子持ちきびなごが漁獲され、秋は身に脂が乗り、締まっています。

東シナ海の豊潤な恵み

東シナ海の恩恵を受けた魚介類は、生鮮食材はもちろんのこと、干物をはじめとする加工食品もふるさと納税で人気があります。また、阿久根は江戸時代の地誌『三国名勝図会』の中で「豊富な魚介が水揚げされること」が紹介されるほど、古くから港町として知られています。

Benefitting from the nutrient of East China Sea, fresh seafood as well as processed food such as dried fish are produced locally and even have become popular choices for "hometown tax". In addition, Akune has long been known as a harbor town, so much so that it was introduced in Sangoku Meisho Zue illustration book from the Edo period as having "an abundance of fish and shellfish to be landed".

阿久根は北薩の漁業の拠点として昔から水産業が盛んな町です。現在も東シナ海で採れた魚が毎日水揚げされ県内をはじめ九州管内及び、関西関東方面にも出荷されています。朝水揚げされた新鮮な魚介類を市内全域で食すことができます。
 また4月から5月にはうに丼祭り、9月から10月には伊勢えび祭りが開催され大好評です。
 今後も北薩の漁業の拠点としてアピールを強化し南九州西回り自動車道の全面開通を見据えて高鮮度の水産物の流通拡大に取り組んで参りたいと思います。

北さつま漁業協同組合 代表理事組合長 佐冨 芳蔵さん



温暖な気候と 大地が生んだ恵み

温暖な気候を生かして果樹や園芸作物などの振興が図られています。安心・安全で高品質な農産物の安定供給を目指し、生産者が愛情を込め育てています。季節ごとにさまざまな種類の農作物が収穫され、全国各地に発送されています。

Growing fruit trees and horticulture have long been engendered in the area due to the mild climate. Aiming to provide a stable supply of safe, reliable, and high-quality agricultural products, our producers "raise" them with love and care. Various kinds of crops are harvested each season and shipped all over the country.



実エンドウ



ソラマメ



カボチャ



ニガウリ

タケノコ



キヌサヤ



オクラ



バレイショ



イチゴ

野菜類

阿久根市の代表的な野菜として、実エンドウ・ソラマメの生産が盛んで、「かごしまブランド」にもなっています。その他、タケノコなどの山の幸も豊富で早掘りタケノコは高級食材としても人気です。

阿久根ボンタン

安永元年(1772年)中国広東の商船が、台湾から長崎に向けて航行中に暴風に遭い、倉津港に避難してきました。船長の謝文旦は感謝の気持ちを込めて2個の果実を贈りました。「ボンタン」の名は謝文旦に由来し名付けられたと言われています。その果実の種子から、その後本田小藤太という人物などによる改良が加えられ、これが阿久根全体へ広がり特産品となりました。



ボンタン



温州みかん



紅甘夏



大将季

柑橘類

北薩地域は柑橘類の産地として有名です。阿久根市で生まれた柑橘類の品種として、鮮やかな紅色で濃厚な甘さが特徴の「大将季」。濃い紅色、甘酸っぱくジューシーな「紅甘夏」などがあります。香り、味、見た目など評価が高く、自慢できるものばかりです。

阿久根の柑橘というとボンタンが有名ですが、阿久根で生まれた柑橘には紅甘夏、紅さわ香、大将季(それぞれ甘夏、紅甘夏、不知火の突然変異)があります。いずれも果皮が紅いのが特徴で味も良いことから、消費者の人気の高く高値で取引されています。先輩方が守ってきた柑橘産地を維持発展させていくために、また若者が農業をやりたいようになるように、これらの品種を活かした「儲かる果樹経営」を目指して努力していきます。

Message



西田果樹園 西田 学さん

春



←うに丼

あくね、
うまいね。



←さばめし

あくねのグルメ

海の幸・山の幸豊富な阿久根は1年を通して特産グルメが満載です。春は「うに丼祭り」秋は「伊勢えび祭り」をはじめ、ボンタン加工品・水産加工品・つけあげ・焼酎とさまざまな食の魅力が満載です。



←旬の伊勢えびのみそ汁は風味が絶品です。

伊勢えび料理▶

秋



道の駅 阿久根



海岸線沿いに立地しているため、東シナ海に沈む美しい夕陽の絶景スポットになっています。また、新鮮な阿久根の食品・加工品も目白押しで、館内のレストランでは旬の味覚を楽しむこともできます。

市場食堂 ぶえんかん



阿久根漁港内にある漁協運営の食堂。その日に水揚げされたばかりの新鮮な旬の魚介が楽しめます。店名の「ぶえん」とは地元の言葉で「鮮魚（せんぎょ）」を意味します。

田代のそうめん流し (そうめん流し大野庵)



鶴川内地区にあり、令和2年(2020年)にリニューアルオープン。山間部にあり夏は心地よいそよ風とせせらぎの音など、細い山道を登った先に緑に囲まれた癒やしの空間で食事が楽しめます。



鶴翔高校「3年A組の®」シリーズ

地元の高校生(鶴翔高等学校 食品技術科)による看板商品の豚味噌をはじめ、ジャムやみかんジュース・ケチャップ・醤油など「3年A組の®」シリーズブランドとして商品が多数。「A」には阿久根(AKUNE)、農業(Agriculture)、さらにAランク(最上級)の意味が込められています。



あくねの焼酎

焼酎といえば鹿児島県。県内有数の焼酎生産地である阿久根市には、腕利きの杜氏によるこだわりの逸品や伝統を継承しながらも新しい技を加えることで次世代へと続く味を守り続けています。

つけあげ(さつま揚げ)

古くから港町としてアジ・サバ・イワシなどの水揚げで賑わってきた阿久根。新鮮な魚介類が豊富に手に入ることから庶民の間で人気の「つけあげ」が広まりました。甘くて懐かしいその味は今でも地域に愛されています。



水産加工品

阿久根漁港は、多様な魚種が水揚げされるのが特徴です。キビナゴ・タカエビ・ムラサキウニなどのお刺身はもちろん、新鮮な魚介類を使用した干物加工品などもお土産として人気です。



ほんたん漬け・加工品

あくねを代表する特産品「ボンタン」。分厚い皮の白い部分を使用した酸味と甘みのある爽やかな味のほんたん漬けをはじめ、さまざまな郷土菓子が開発されています。近年では、ボンタンの魅力を県内外に発信する「B(ボンタン)プロジェクト」から新たにボンタンサイダー開発やボンタン湯などの取組も行われています。





あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介

賑わいと 活力を創出する

阿久根市産業祭
阿久根の年末恒例行事である、阿久根市産業祭。市内外のさまざまな商品が目白押し。地元で獲れた農林水産物や加工品・商工業製品・特産物が展示販売され、市内外から多くの買い物客で賑わいます。

阿久根市の魅力は水産業・農業のみならず、商工業・製造業においても他に引けを取りません。市外・全国、海外まで市場はさまざまです。食材・加工食品はもちろん、大手企業の大規模工場のほか、職人の技を生かし世界に流通するスポーツ用品もこの阿久根で製造されています。

The appeal of Akune city is not only in its fisheries and agriculture, but also in its commerce and manufacturing industries. Its products can be found in various markets outside the city, across the country, and around the world. In addition to foodstuffs and processed foods, the city not only hosts large-scale factories of major companies, but sporting goods from global brands are manufactured by craftsmen in Akune.



大型スーパーマーケット

年中無休・24時間営業のため都合の良い時間に「いつでも安心」して買い物ができるお店をモットーとして、地域に根ざしお客様に喜ばれるサービスを展開し、地方に立地する大型店舗の成功モデルとして全国から注目されています。



出水郡医師会広域医療センター

阿久根市の中心部に立地し、阿久根市・長島町・出水市などの地域医療の中核施設として最新の医療機器が導入されています。救急医療や高度医療を重点的に行い、地域住民から信頼される医療に取り組んでいます。



革製品

アメリカのスポーツ用品メーカー（Wilson社）から委託され、野球用グローブを製造しています。熟練の職人技で作られるグローブは超一流メジャーリーガーや日本のプロ野球選手にも支持されています。



水産加工

漁業のまち阿久根の水産加工場。毎朝新鮮な取れたての魚をその日のうちに熟練の職人が一匹ずつ手早く捌きます。独自の製法で「魚の鮮度と旬」にこだわった美味しい商品づくり一筋。



焼酎蔵元

かつて阿久根には歴史ある蔵元が点在し、現在も腕利きの杜氏や蔵子のこだわりの逸品の焼酎が目白押し。口の中に広がる豊かな味わいが県内外のファンを魅了しています。



食品加工

果実の王様と呼ばれる南国の香りたっぷりの「ボンタン」。青果としても美味しいですが、なんとと言ってもボンタンを加工した「ほんたん漬け」は阿久根を代表する銘菓です。その他ボンタンサイダーなども発売開始。



食肉加工業

食肉の安全・安心な商品づくりを追求し、厳しい安全管理のもと（食品の「安全性」と「品質」を確保するための国際認証規格）SQFを取得。極めて基準が厳しい米国やEUをはじめとする諸外国への輸出も認定を受けています。



電子部品

さまざまな分野で使用される金属パーツ・特殊締結部品・特殊ボルトナットなどを製造しています。独自の技術力で開発された製品は、自動車や産業機械・電気製品・事務用品など各種業界で高い信頼を得ています。

Message

南九州西回り自動車道など高速交通体系や住環境の変化及び多様化する消費者のニーズにより、地域に密着したサービスの提供、新たな施設整備など、先人の英知に学びここまで繋いできました。また、農林水産物をはじめ食品加工品、観光サービスなどを包括的に支援する地域ブランドの確立は、それぞれの産業の競争力や付加価値を向上させるための有効な手段です。より愛され親しまれ、活気あふれる街づくりを目指すとともに、特産品の更なる開発及び阿久根市の4つの「みどこい」を全国へ情報発信し、地元経済の活性化を図ります。

阿久根商工会議所 中小企業相談所 所長 田上 雄二さん

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介

阿久根市の祭り・イベント *Festivals and Events*

阿久根市では、全国的に珍しい「華の50歳組」や「みどこい祭り」、「あくねボンタンロードレース大会」など、産業や文化を生かしたさまざまなイベントを開催し、市内外から多くの人々がイベントに参加をしています。

毎年、阿久根市特有のイベントを開催することで、市民に阿久根市の産業や文化への理解を深めていただくとともに、阿久根市外へのPRや知名度アップを図っています。

Akune City holds a variety of events that make use of its industry and culture. Popular events include Hana no Gojussai Gumi (Shining 50s), Midokoi Festival, and Akune Bontan Road Race. Many citizens and visitors participate in these events. By holding events unique to Akune every year, we aim to deepen citizens knowledge of the city's industry and culture. We also desire to raise the profile of Akune outside of the prefecture.

春

3月



・九州選抜高等学校駅伝競走大会
(3月第2日曜日)

4月



・阿久根うに井祭り

阿久根市で獲れた生うにを使用しうに井を、阿久根市内の飲食店や宿泊施設で味わうことができます。和食から洋食まで、各店の特色あるうに井を提供します。

・3月10日祭り(金比羅祭り)

5月



・ひな女まつり(旧暦4月8日)
・番所丘公園グリーンフェス
(ゴールデンウィーク)

夏



・海開き(7月第1土曜日)



7月



・阿久根みどこい夏まつり(7月下旬)

秋



・あくね洋画展(8月下旬~9月上旬)

9月



・阿久根伊勢えび祭り

阿久根市内の店舗で開催する「阿久根伊勢えび祭り」。各参加店ごとに趣向をこらした伊勢えび料理を提供しています。

・華の50歳組

10月



・阿久根みどこい秋まつり

冬



・あくねボンタンロードレース大会
(12月第1日曜日)

12月



・産業祭(アクネうまいネ自然だネまつり)
(12月中旬)

1月



・えびす祭り(1/10)

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介

自然と伝統が育む

Nature and Tradition



市内各地には、古くからさまざまな伝統行事や郷土芸能が伝わっています。これらを保存・継承していくために、地域が一体となって伝承し、後世へ受け継がれていくよう取組を支援しています。また、変化に富んだ美しい自然も子供たちの好奇心を刺激し、恵まれた環境の中で、地域の大人もいっしょになって感受性豊かな心と健康的な体を育てています。

Various traditional events and local performing arts have been handed down from generation to generation throughout the city's lifespan. In order to preserve and further pass these on, we support the efforts of the local communities to work together in the effort of passing them on to future generations. The beautiful and varied nature in our city encourages curiosity in children. Adults in the community also join together in nurturing a receptive mind and healthy body.

三尺棒踊り

棒踊りは、元々は戦に向かう人々を鼓舞するための踊りとされ、戦国時代に島津義弘によって県内各地で始められました。山下地区では山下小の児童たちが継承し、伝統を守り続けています。



▲山田楽

脇本小の児童が受け継いでいる伝統芸能の山田楽は、戦国時代末期、出水郷の名地頭と謳われた山田昌巖が考案し、関ヶ原の戦いへ出陣する際に奉納したものとされています。

地引網体験

海と山の学校の交流で実施する地引網体験では、西目小と尾崎小の児童たちが西目地区の海岸でいっしょに網を引きます。この他にも、市内の小学生を対象に漁師体験や魚料理教室などの体験学習も実施するなど、海の恵みをたっぷりと感じることができます。



農業体験

【田植え】

田代小や折多小などでは、米作りを体験します。地元有志が協力し、技術指導のもと、子供たちが田植えを行います。秋には実った稲穂を収穫します。また、折多小では、2011年から収穫したお米を「支援米」として、福島の小学校に送っています。



【タケノコ掘り】

田代小では、体験学習として地域の人と交流しながら、児童たちがタケノコを掘り、食や環境保全について学びます。



【芋掘り】

大川小や鶴川内小などでは、春に苗を植え、秋に大きくなった芋を収穫します。大川小では、創立記念として、育てた芋から焼酎を作り、販売する取組を行いました。



この他にも、野菜作りや味噌作りなど各学校が特色のある取組を行っています。

ボンタン狩り体験

市内では農業体験学習が実施され、名産品であるボンタンの収穫も行います。山間にある尾崎小と海沿いの西目小では交流学習もあり、尾崎地区のボンタン園でいっしょに収穫体験をします。



ジャンボカルタ大会

尾崎小の伝統行事で、巨大なカルタをチーム戦で取り合います。お題と絵札は阿久根の名所や特産品にちなんだもので、全部で46枚あります。



でんえんコンサート

鶴川内地区では「でんえんコンサート」と題して、音楽に親しむイベントを平成12年から開催しています。会場となる鶴川内小の児童たちによる合唱・合奏のほか、吹奏楽団などの音楽団体も演奏を行います。



市民すべてが主役の まちづくり、 暮らしづくり

*Creating Communities and
Lifestyles in Which All
Citizens Play a Leading
Role*



健康的にいきいきと暮らせる場所でありたい。誰もが活躍できる場所でありたい。「笑顔あふれるまちづくり」を市民一丸となって目指しています。

We want the city to be a place where people can live healthy and vigorous lives. We want the city to be a place where everyone can play an active role. We will continue to work with all citizen to create a city full of welcoming faces.

▲華の50歳組

その年に50歳になる人たちが卒業した小学校の運動会に参加し、旧友と久しぶりに顔をあわせて、童心に帰って駆け回ります。昭和26年(1951年)に阿久根小学校で始まったもので、現在は市内のすべての小学校で実施されています。市主催の歓迎レセプションも盛り上がります。



あくね洋画展

阿久根市では豊かな郷土の魅力再発見や文化のまちづくりのため、毎年「あくね洋画展」を開催しています。令和3年(2021年)で23回目の開催となり、県内でも有数の洋画展となっています。一般、小・中・高校生の個性あふれる絵画を展示します。



阿久根市総合文化祭

毎年11月に開催。日頃の文化活動の発表の場として多くの方が参加しています。演芸の部と展示の部からそれぞれ個性あふれる発表、展示が多数あります。



生涯学習フェア

毎年2月に開催。生涯学習講座の発表の場として多くの市民が参加。体育功労者、体育協会優秀選手・団体の表彰のほか生涯学習講座受講生の作品展示、小中学生の弁論大会なども行われます。



阿久根市自主文化事業

阿久根市では自主文化事業として、コンサートや映画上映、落語公演などさまざまな文化イベントを開催しています。

ラジオ体操推進事業

生活習慣病予防や健康づくりのための取組として、ラジオ体操を毎日続けることを奨励。市民への定着を目指しています。市庁舎では平日の昼休み時間にラジオ体操を放送して職員が実践し、来庁者にも参加を呼びかけています。

スポーツイベント

スポーツが盛んな阿久根市では、総合運動公園などで各競技大会が数多く開催されています。近年では高齢者の中でグラウンド・ゴルフの競技人口が増加しています。番所丘公園には本格的なグラウンド・ゴルフ場が整備されています。

地域おこし協力隊

県外からの若い移住者たちのアイデアと行動力で様々な分野での地域おこしに取り組んでいます。地域住民と一緒に日々阿久根を盛り上げる活動を行っています。

各種ボランティア活動団体

市内各地区のボランティアグループが通り・歩道の緑化や清掃及び地域交流や親睦などを図り、住みやすいまちづくりに貢献しています。

あくねの歩み *History of Akune*

阿久根は平安時代末期には英祢(あくね)院と称され、その院司に任命されていた英祢氏によって統治されてきました。後に英祢は「莫祢」とも書かれ、15世紀中期に現在の「阿久根」に変わったとされています。島津氏の統治後、明治4年の廃藩置県で鹿児島県に属し、明治22年の市町村制実施によって阿久根村として現在の基礎が確立しました。その後、大正14年に町となり、昭和27年4月に県下6番目の市として発足しました。さらに昭和30年には、隣接の三笠町と合併して現在の形態となりました。

Akune was referred to as Akune palace in the late Heian period (794-1185) as it was ruled by the appointed leadership, the Akune clan. Akune in written form saw a few changes before settling to the current set of Kanji letters (阿久根) in the mid-15th century. After the rule of the Shimadzu clan, the Akune area became part of Kagoshima Prefecture in 1871 with the abolition of the feudal domain. The current foundation was established as Akune Village in 1889 with the implementation of the municipal system. The village later became a town in 1925 and was inaugurated as the sixth city in the prefecture in April 1952. Finally, in 1955 Akune and its neighboring town, Mikasa, were merged into one.



鳥越古墳 1号墳

古墳時代後期に作られた県内最古の高塚古墳です。発見時、墳丘はほとんど削られていましたが直径20～25mの円墳と思われ、前方後円墳の可能性もあると考えられています。埋葬施設は竪穴式の石室で長さ4.4m、幅と高さが0.75m。安山岩の石板を積んで作られ、割竹形木棺を置いたと思われる粘土質の床からはガラス玉も出土しています。付近では5～6世紀のものと思われる地下式板石積石室墓も見つかっています。現在は、はまじんちょう公園に移設して展示しています。

脇本古墳出土品

市街地より約7km北側の内湾部にある脇本古墳群は、県指定文化財の糸割洲古墳群と市指定文化財の新田が丘古墳群の二つからなっています。種類の違う墓制が隣接しており、鉄剣、鉄刀、鉄鏃などが出土して、市の古墳文化を知る貴重な遺跡となっています。



かんめ
神舞

波留地区の南方神社において、8年に1度、旧暦の7月28日に五穀豊穡を祈って奉納されるもので、宝暦年間(1751～64)には、すでに舞われていたと考えられています。この舞は幼児の露払いに始まり、瓶舞・弓舞・剣舞・田之神舞・將軍舞と続き、鬼神舞で終わる七つの舞からなっています。特に最後の鬼神舞は、同社に伝わる鬼神面をつけた勇壮なものであり、舞のクライマックスで鬼神の面が「笑う」と言われています。



与謝野鉄幹・晶子 八田知紀の歌碑

戸柱公園からは光礁を望むことができ、市内屈指のパワースポットとなっており、3つの歌碑があります。光礁の波と岩とに今日ふれて 清く明るくなる心かな (与謝野鉄幹) 乙女子のさし櫛ほどに やさしきは 西の阿久根の大島にして (与謝野晶子) 光礁の光る心を 人とはば神のみたまと 吾はこたへん (八田知紀)



阿久根砲

昭和32年、浜区の海岸で発見されました。16世紀頃のボルトガル製のものだと推定され、来港した船の備砲であったと考えられています。当時の海外とのつながりを知る貴重な資料として、展示されています。(昭和34年鹿児島県有形文化財指定)

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介

阿久根の歴史 略年表

昭和27年	阿久根町が市制施行、松田進が初代市長に就任	昭和28年	アマゾンチョウが県・天然記念物に指定される
昭和29年	三笠村が町制施行、早水重雄が初代町長就任	昭和30年	阿久根・脇本海岸一帯が県立公園に指定される
昭和31年	三笠町が阿久根町と合併	昭和32年	商工会が阿久根商工会議所となる
昭和33年	阿久根砲が県・文化財に指定される	昭和34年	建設省鹿児島国道工事事務所阿久根出張所が開設
昭和36年	〇 戸庄右衛門翁が市立図書館寄贈、名譽市民第1号に	昭和39年	〇 東京オリシビック聖火リレー中継地となる、聖火が市長室で一泊
昭和40年	〇 阿久根市消防署完成	昭和42年	〇 阿久根電報電話局が完成、電話が自動化される
昭和43年	〇 南方神社の神舞が県・無形文化財に指定される	昭和44年	〇 皇太后御夫妻を阿久根駅で奉迎する
昭和46年	〇 高松川防災ダムが完成	昭和47年	〇 牛深航路が廃止
昭和48年	〇 市木に「あくね文旦」を指定	昭和49年	〇 黒之瀬戸大橋が完成
昭和51年	〇 新・市庁舎、消防庁舎が完成	昭和53年	〇 阿久根市民憲章を制定
昭和58年	〇 阿久根大島の松が「日本の名松100選」に選ばれる	昭和63年	〇 市長・川畑強逝去、名譽市民第4号となる
平成元年	〇 特産品統一ブランドマーク「アクネつまいネ自然たえ」発表	平成2年	〇 鳥越古墳発見される
平成3年	〇 国立療養所阿久根病院が出水郡医師会へ移管、阿久根市民病院が発足	平成6年	〇 集落再編整備事業で本之牟礼集落が倉津に集団移転
平成8年	〇 水産加工団地、食肉加工団地が完成する	平成10年	〇 総合体育館完成
平成9年	〇 「道の駅阿久根」開駅	平成11年	〇 阿久根みどり祭り開始
平成12年	〇 阿久根大島の再生を目指し、1300本の松を植樹	平成13年	〇 国民宿舎あくねの運営を民間に委託、「グランドビューあくね」となる
平成14年	〇 阿久根大島の渡船場が旧港から新港へ移る	平成15年	〇 情報収集衛星受信局完成
平成16年	〇 番所丘公園全面オープン	平成17年	〇 阿久根市防災行政無線開局
平成18年	〇 出水地区5漁協が合併し、北さつま漁協が開業	平成19年	〇 鹿児島本線川内・八代間がJR九州から経営分離され肥薩おれんじ鉄道が開業
平成20年	〇 阿久根、阿久根農業、長島の3高等学校の統合に伴い県立高等学校が開校	平成21年	〇 平成18年7月鹿児島県北部豪雨災害発生、みどり祭りも中止に
平成22年	〇 「華の50歳組」を阿久根市が商標登録	平成23年	〇 北さつま漁協の高度衛生対応型荷捌施設が完成
平成24年	〇 阿久根大島・脇本の両海水浴場が日本の「快水浴場百選」に選ばれる	平成25年	〇 つわぶきを市の花に制定
平成26年	〇 南九州西回り自動車道阿久根道路が全線開通	平成27年	〇 阿久根駅がリニューアルし、にぎわい交流館阿久根駅が開業
平成28年	〇 阿久根市初の女性消防団が発足	平成29年	〇 カスミサンショウウオが県の天然記念物に指定される
平成30年	〇 牛之浜海岸が県の名勝に指定される	平成31年	〇 阿久根インターチェンジ間、グランビューあくねが営業を終了
	〇 市民交流センター建設着工		〇 市民交流センター建設着工
	〇 南九州西回り自動車道阿久根道路が全線開通		〇 台湾・台南市善化区と友好交流協定を締結(国内外を含め本市では初)
	〇 南九州西回り自動車道阿久根川内道路着工		〇 市民交流センター(風テラスあくね)が完成
	〇 市民交流センター(風テラスあくね)が完成		

阿久根人物伝

Historic Figures

阿久根が生んだ偉人たち

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介



寺島宗則記念館

寺島宗則の生涯や功績を伝える歴史資料を展示しています。旧家の目の前には改名の由来となった「寺島」も望めます。



宗則直筆の手紙



寺島を眺める表座敷



宗則のビデオ鑑賞



電気通信の父
てらしまむねのり
寺島宗則
(1832年～1893年)

脇本の郷士の家に生まれ、若年より蘭学を修め医学をはじめ幅広い分野の学問に精通しており、島津斉興や島津斉彬の侍医のほか、幕府の蛮書調所の教授手伝としても活躍しました。また、藩の英国留学生派遣の引率役も務め、明治政府では外務卿（外務大臣）などを歴任しました。日本初の電気通信施設を完成させた人物としても知られ、「電気通信の父」と呼ばれています。



阿久根の文化向上にも貢献
かなみげんべえ
河南源兵衛
(1826年～1885年)

明朝末期の動乱の中で中国から日本に帰化した藍会衆が初代「河南源兵衛」を名乗り、初めは唐通詞（中国語通訳）として密貿易に関わっていました。当時の日本では貴重な唐物品には偽物が多く、通訳と同時に目利きのできる源兵衛は薩摩藩から重宝され、河南家は藩の御用商人として代々活躍し、七代目の根心の時代には数隻の大型船を持ち、約300人を雇っていました。ちなみに阿久根大島に最初に鹿を放ったのも河南家です。



河南源兵衛の石碑

江戸の初期から7代にわたって、河南家は琉球をとおして中国との貿易を担ってきました。記念碑に刻まれている和歌は、七代目「源兵衛」が詠んだもので国道3号沿いの中央公園内にあります。



河南源兵衛ゆかりの品々



河南治助作(世界地図・薩摩地図)



五代源兵衛作(航路里程図)



いしざわ ばくしゅう
石澤 柏州
(1805～1892)

勤皇の名僧

石澤柏州は、文化2年(1805)、脇本に生まれた。幼いときから憐れみの心が深く、また殺生を好まず、出家して志布志大慈寺の住職となった。その学徳を慕われ、大先生と呼ばれるようになると、薩摩藩主島津久光は「わが勤皇の心事を奏上して宿望を上げしめよ」と命じた。柏州が密書を天朝に達した後、久光は朝廷から勅命を受け、藩邸修理の名目で千人余りの精兵を率いて、京都御所の守護に就いた。このように柏州は、わが薩摩が維新の大業において、指導的な活躍をする動機を作ったといえる。



しらはま かんい
白浜 貫以
(1849～1923)

郷土の教育と政治に尽くした

白浜貫以は、阿久根郷土の中心的指導者、白浜貫礼の長男として嘉永2年(1849)、波留の小牟田に生まれた。生来、豪放な性格に容貌も偉大で、維新の戦いには幼少の身で参加した。明治元年(1868)の地方自治制度の創設期に郷の首長を務め、その基礎作りにも貢献した。また、明治22年(1889)、市町村制が敷かれて阿久根村が誕生すると初代村長に選ばれ、その後も3度村長を務めた。その間、治安維持のため阿久根分署の設置や道路の開発、漁業「組合」組織の導入など、郷土の治安・産業の振興開発に貢献した。



なかもら せいきょう
中村 静興
(1864～1927)

阿久根温泉の父

中村静興は早くに両親を失い、おばに育てられた。当時よく高松川に水泳に行っていた静興は、川底が温かかったことから湯が出るのではないかと常に考えていた。独学の後、帝国医科大学予科から長崎医専に転校し卒業後開業。人々の信頼は厚く患者の絶える間がなかったという。そして明治44年(1911)10月、少年時代より夢みていた温泉掘削に着手した。工事は長引き、蓄えた資金もすべて使い果たしてしまった静興だったが、それでも屈することなく掘り続け、翌45年4月、ついに待望の温泉を発見した。



にしむら しゅれい
西村 種礼
(1869～1932)

漁業開発に尽くした

西村種礼は、明治2年(1869)、波留の郷土白浜貫礼の三男、貫以の弟として生まれた。慶應義塾(現・慶應義塾大学)を卒業して阿久根に帰り、明治34年(1901)にわずか32歳で村長に選ばれた。さらに大正6年(1917)には衆議院議員に当選し、政友会に属して国政の発展に尽くした。漁業の開発には特に尽力し、大正元年(1912)、漁業組合長に就任して現在の組合発展の基礎を作った。また、漁業物共同販売所を設置して仲買人の入札制とした。これが漁獲物における近代販売法のはじまりである。



くすだ まさよし
楠田 正義
(1873～1961)

阿久根港開発の父

楠田正義は、明治6年(1873)、波留村の郷土堀切源吾の二男として生まれた。鹿児島尋常師範学校を卒業後、阿久根小学校をはじめとして多くの小学校校長を歴任した。大正14年(1925)、第2代阿久根町長に就任以来、4期16年にわたって町政に尽くした。その中でも、何度となく県と政府に陳情を行い、昭和12年(1937)によりやく決定された阿久根港改築事業は、正義の最大の功績といえる。また、「薩摩大川駅」の開発も、正義の熱意と努力によってできたものといわれている。



たなか つねのり
田中 常憲
(1873～1960)

教育者・歌人

田中常憲は、明治6年(1873)、高松橋にほど近い波留の田中六郎右衛門常典の二男として生まれた。小学校教員養成所を卒業後、わずか23歳で鷹巣小学校の校長に抜擢された。明治34年(1901)には中学校の教員免許を取得し、長野や大阪、大分、京都などの中学校に勤務した。長野県上田中学校在職時には、今でも長野県下青年の間で愛唱されている『信州男児』を、桃山中学校校長時代には桃健健児の歌を作って、若人たちに親しまれた。また、常憲は歌人としても有名で、歌誌「新月」を主宰し、多くの歌集も出している。



たなか うきつ
田中 右橋
(1875～1963)

法曹界の偉人

田中右橋は、明治8年(1875)、波留の末田景春の二男として生まれた。東京帝国大学法学部を卒業後、京都地方裁判所司法官候補に奉職、奈良地方裁判所長、大審院(最高裁判所)判事、仙台・広島などの各控訴院長を務めた。ジュネーブにおける万国手形法に関する国際会議には、わが国の全権として出席した。司法界における長年の功績により、昭和10年(1935)には正三位勲二等に叙せられた。また、阿久根大島に鹿を放つことを思い立ち、奈良春日大社の神鹿2つがいをもらいうけてやったこともある。



なかも すみとし
中尾 純利
(1903～1960)

初の世界一周機長

中尾純利は明治36年(1903)、山下の中尾助太郎の三男として生まれた。小学校の頃の愛読誌は当時の少年雑誌「飛行少年」であったという。昭和14年(1939)、純利は純国産機の「ニッポン号」の機長として、世界一周親善の飛行に飛び立った。カナダ・アメリカ・南アメリカ・アフリカ・ヨーロッパ・アジアと五大州を巡った距離は52,860キロ。出発以来56日間、滞空時間194時間にも及ぶ快挙であった。その後昭和27年(1952)、羽田空港が、東京国際空港となると、初代空港長となった。



ほし しょうえもん
榎 庄右衛門
(1889～1972)

初の名誉市民

榎庄右衛門は、明治22年(1889)、西目高之口の榎次郎の五男として生まれた。幼くして両親を失ったが不屈の精神と機知に富み、その商才を発揮した。小学校高等科を卒業後、兄の経営する塩焚きに日夜働いた。さらに魚・海藻や甘藷問屋を始めたが、ともに大成功を取った。その後、澱粉製造業に転じ、澱粉糖化(水飴)に成功、多くの工場と会社を設立発展させた。また、町議会・市議会議員として地方自治に尽くし、市立図書館を建築寄贈したほか、教育文化・体育の向上に多額の私財を寄贈してその発展に寄与した。



とりかい もとほる
鳥飼 源晴
(1926～1967)

辺地医療に尽くした

鳥飼源晴は、大正15年(1926)、折口永田下の鳥飼源吉の四男として生まれた。熊本第五高等学校卒業後、2年間教鞭をとったが、再び熊本医科大学に学び、昭和33年(1958)、脇本に外科医として開業した。明るい性格と献身的な仕事ぶりでも地区民の信望も厚く、非常に愛された。離島診療にも積極的に取り組んでいたが、昭和42年(1967)、退院する少女を自ら操縦するボートで獅子島に送り届けた帰路、天候が急変し、冬の海の荒波の中で看護婦の姉とともに短い生涯を終えた。

公共施設

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介

あくねの魅力

あくねの特産

あくねの暮らし

あくねの歴史

あくねの紹介



① 阿久根市役所



⑥ 阿久根総合運動公園



② 阿久根地区消防組合（阿久根消防署）



③ 阿久根警察署



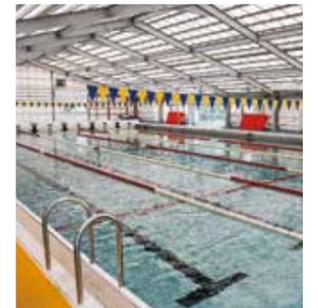
総合体育館



陸上競技場



多目的雨天屋内運動場



プール



④ 阿久根市保健センター



⑤ 学校給食センター



⑦ 市立図書館・郷土資料館



⑧ 三笠支所・脇本地区公民館



⑨ 大川出張所・大川診療所

- ① 阿久根市鶴見町 200 番地 ☎ (0996) 73-1211
- ② 消防署は市役所に隣接。市内の防災拠点として機能しています。阿久根地区消防組合は阿久根市と出水郡長島町を管轄。
☎ 阿久根市鶴見町 200 番地 ☎ (0996) 72-0119
- ③ 市民の生命・財産を守り、犯罪や事故を未然に防ぐことによって、平和な社会を維持しています。
☎ 阿久根市赤瀬川 3852 番地 1 ☎ (0996) 73-0110

- ④ 市民の健康維持・健康増進にかかわる拠点施設です。健診や健康相談などを行っています。
☎ 阿久根市鶴見町 166 番地 ☎ (0996) 73-3768
- ⑤ 市内の小学校・中学校に、安心・安全で栄養バランスのとれたおいしい学校給食を提供しています。
☎ 阿久根市赤瀬川 3127 番地 8 ☎ (0996) 72-7081
- ⑥ 総面積は約 15 万㎡。広大な敷地内に各競技場が設備。
☎ 阿久根市赤瀬川 2486 番地 1 ☎ (0996) 73-4649
【総合体育館】メインのアリーナはバレーボールコート 4 面が設置できる広さ。卓球場などを併設。

- 【陸上競技場】400 mトラックや直線 100 mコースのほか、障害水濼、跳躍場、投てき場なども整備。
- 【多目的雨天屋内運動場】ゲートボール2面、フットサル1面分の広さがあり、雨天練習に最適。照明も完備。
- 【プール】屋内施設で 25m × 6m コースの公認プール。
- ⑦ 1階と2階が図書館。一般書のほか、阿久根に関する蔵書もあります。3階は資料館になっていて、貴重な資料が展示されています。
☎ 阿久根市高松町 2 番地 ☎ (0996) 72-0607

- ⑧ 【三笠支所】市の北部に位置する脇本地区で市民の各種手続を行う施設として役割を果たしています。
【脇本地区公民館】脇本地区の教育・文化に関する拠点として役割を果たしています。
☎ 阿久根市脇本 7363 番地 ☎ (0996) 75-0002
- ⑨ 【大川出張所】市の南部に位置する大川地区で市民の各種手続を行う施設として役割を果たしています。
☎ 阿久根市大川 8224 番地 ☎ (0996) 74-0001
【大川診療所】大川地区で地域住民の医療機関として診療を行っています。
☎ 阿久根市大川 8219 番地 1 ☎ (0996) 74-0054



議会構成図

議長・副議長	常任委員会	総務文教委員会
		産業厚生委員会
		予算委員会
		広報広聴委員会
	議会運営委員会	
特別委員会	※必要に応じ設置	

行政

市民・議会・行政が一体となったまちづくり

より良いまちの実現に向けて、市の魅力である自然の恵みや歴史と文化を活かし、多様な産業が躍進するまちや、教育・防災・医療・福祉などあらゆる分野において、賑わいと活力を創出する充実したまちを目指して市民・議会・行政が一体となり取り組んでいます。



Citizens, the council, and the administration are collaborating together to create a city where diverse industries can thrive by taking advantage of the city's natural blessings, history, and culture. In addition, we seek the emergence of a flourishing city characterized by vigour and vitality in all areas such as education, disaster prevention, medical care, and welfare.



歴代市長

歴順	氏名	就任年月日
初代	松田 進	昭和27年4月1日
2	〃	昭和30年5月1日
3	丹宗 忠	昭和34年5月1日
4	〃	昭和38年5月1日
5	〃	昭和42年5月1日
6	〃	昭和46年5月1日
7	坂元 善文	昭和50年2月2日
8	川畑 強	昭和54年2月2日
9	〃	昭和58年2月2日
10	〃	昭和62年2月2日
11	新戸 勝記	昭和63年9月11日
12	〃	平成4年9月11日
13	斎藤 洋三	平成8年9月11日
14	〃	平成12年9月11日
15	〃	平成16年9月11日
16	竹原 信一	平成20年9月11日
17	〃	平成21年5月31日
18	西平 良将	平成23年1月16日
19	〃	平成27年1月16日
20	〃	平成31年1月16日

歴代助役・副市長

歴順	氏名	就任年月日
初代	松元 末吉	昭和27年4月1日
2	中村 豊治	昭和30年5月1日
3	江良 英千代	昭和34年5月13日
4	〃	昭和38年5月13日
5	〃	昭和42年5月13日
6	〃	昭和46年5月13日
7	小野 義成	昭和50年6月13日
8	新戸 勝記	昭和54年8月8日
9	〃	昭和58年8月8日
10	〃	昭和62年8月8日
11	川畑 文平	昭和63年9月26日
12	〃	平成4年9月26日
13	川原 貴	平成7年6月5日
14	古川 伸二	平成10年4月1日
15	川畑 裕	平成12年4月1日
16	〃	平成16年4月1日
17	前村 洋行	平成20年4月1日
18	仙波 敏郎	平成22年8月2日
19	馬場 義季	平成23年2月17日
20	寺地 正吉	平成25年4月1日
21	春原 善幸	平成29年4月1日
22	松崎 裕介	令和3年4月1日

※平成19年度から「助役」は「副市長」へ名称変更

歴代教育長

歴順	氏名	就任年月日
初代	徳留 斌	昭和27年11月1日
2	木佐貫 重元	昭和28年4月1日
3	東 穂 幸男	昭和30年3月1日
4	長 濱 照彦	昭和31年6月1日
5	〃	昭和31年10月1日
6	〃	昭和35年10月1日
7	黒崎 栄	昭和36年7月5日
8	〃	昭和39年10月1日
9	〃	昭和43年10月1日
10	〃	昭和47年10月1日
11	峯 徳 栄	昭和51年10月1日
12	池田 友吉	昭和55年10月1日
13	大 磯 政明	昭和59年10月15日
14	〃	昭和63年10月15日
15	〃	平成4年10月15日
16	井上 満博	平成6年4月1日
17	〃	平成8年10月15日
18	橋山 重遠	平成12年10月15日
19	〃	平成16年10月15日
20	原田 正美	平成23年2月17日
21	〃	平成27年5月11日
22	中野 正弘	平成30年5月11日
23	〃	令和3年5月11日

議会

市民の声を行政に生かす



議会風景 (傍聴席から)



議長 野畑 直



副議長 濱崎 國治

阿久根市議会は選挙で選ばれた15名の議員で構成され、市の条例、予算などを審議し、市の施策などの重要な意思決定をします。会議は、年4回の定例会と必要に応じて開かれる臨時会があり、本会議のほか、詳細な審査等を行う4つの常任委員会が設置されています。また、市民から出された請願や陳情などの審査も行っています。

The Akune City Council is made up of 15 elected members who deliberate on city ordinances, budgets, etc., and make important decisions to set city policy. There are four city council meetings per year and special sessions held as needed, in addition to the regular sessions where all council members are present. There are four specialized committees that conduct detailed examinations and report back to the main council body. The city council also examines whether or not to endorse the petitions from citizens.

歴代議長

歴順	氏名	就任年月日
初代	牧内 基吉	昭和27年4月1日
2	〃	昭和30年5月8日
3	江良 英千代	昭和32年6月13日
4	坂元 善文	昭和34年5月13日
5	白濱 貴徳	昭和36年11月13日
6	坂元 善文	昭和38年5月6日
7	〃	昭和42年5月6日
8	平國 正富	昭和44年11月17日
9	〃	昭和46年5月6日
10	牛之濱 水雄	昭和50年5月6日
11	大田 繁	昭和54年5月7日
12	〃	昭和56年5月7日
13	梶尾 孫兵衛	昭和58年5月6日
14	富吉 福蔵	昭和60年5月7日
15	迫口 保雄	昭和62年5月7日
16	若松 富春	平成元年5月10日
17	富吉 福蔵	平成元年12月28日
18	若松 富春	平成2年6月11日
19	〃	平成3年12月20日
20	平田 修二	平成5年12月24日
21	〃	平成7年12月24日
22	〃	平成9年12月24日
23	築地新 格	平成11年12月24日
24	若松 富春	平成13年6月11日
25	山田 勝	平成13年12月25日
26	京田 道弘	平成15年12月22日
27	〃	平成17年12月26日
28	庵 重人	平成19年12月21日
29	京田 道弘	平成20年9月29日
30	濱之上 大成	平成21年4月17日
31	〃	平成23年5月11日
32	〃	平成25年5月13日
33	木下 孝行	平成27年5月8日
34	〃	平成29年5月15日
35	野畑 直	令和元年5月10日
36	〃	令和3年5月10日

歴代副議長

歴順	氏名	就任年月日
初代	花田 末吉	昭和27年4月1日
2	大石 六蔵	昭和29年3月31日
3	濱上 信久	昭和30年5月8日
4	江良 英千代	昭和31年5月8日
5	坂元 善文	昭和32年6月13日
6	船元 金吾	昭和34年5月13日
7	戸 庄右衛門	昭和35年5月4日
8	平石 正美	昭和38年5月6日
9	〃	昭和42年5月6日
10	牛之濱 林 矢	昭和46年5月6日
11	中津濱 實	昭和50年5月6日
12	富吉 福蔵	昭和54年5月7日
13	恒吉 金喜	昭和56年5月7日
14	奥平 慶蔵	昭和58年5月6日
15	富吉 福蔵	昭和59年6月7日
16	山田 政	昭和60年5月7日
17	中村 健一	昭和62年5月7日
18	京田 勇	平成元年5月10日
19	平田 修二	平成元年12月28日
20	築地新 格	平成3年12月20日
21	〃	平成5年12月24日
22	〃	平成7年12月24日
23	鶴岡 辰男	平成7年12月24日
24	谷口 勝	平成9年12月24日
25	山田 勝	平成11年12月24日
26	田上 正	平成15年12月22日
27	庵 重人	平成17年12月26日
28	児玉 賢一郎	平成19年12月21日
29	鳥飼 光明	平成21年4月17日
30	木下 孝行	平成23年5月11日
31	中面 幸人	平成25年5月13日
32	岩崎 健二	平成27年5月8日
33	野畑 直	平成29年5月15日
34	飯塚 一徳	令和元年5月10日
35	濱崎 國治	令和3年5月10日

資料編

位置

阿久根の位置				市庁舎の位置	
極地	地名	経緯度	隣接地	地名・番地	経緯度
東	池之段	東経130°18'45"	薩摩川内市東郷町	阿久根市鶴見町 200番地	東経130°11'34" 北緯32°00'52"
西	桑島	東経130°09'39"	東シナ海		
南	深迫	北緯31°55'40"	薩摩川内市西方町		
北	焼崎	北緯32°07'43"	八代海		

総面積

市域の総面積	広ぼう		
	東西	南北	海岸線延長
134.28km ²	11.1km	22.4km	40.0km

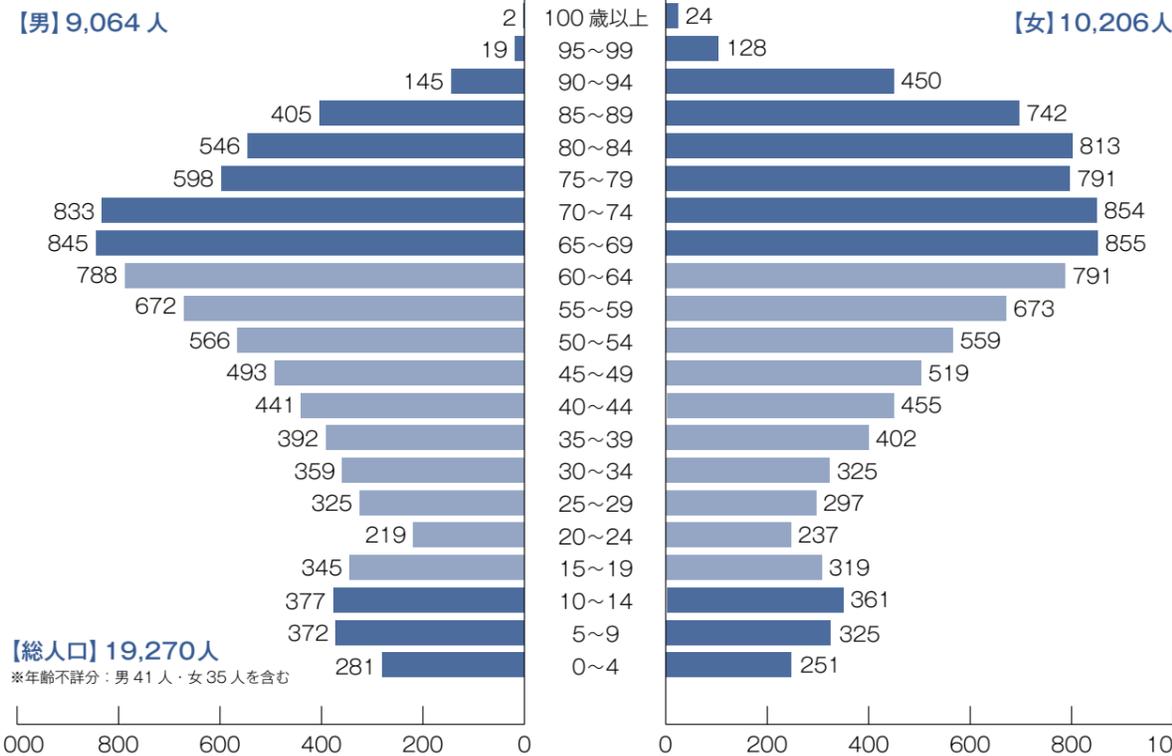
人口の推移

各年 10月1日現在

年次	世帯数	人口(人)			1世帯当り 人員(人)	密度(1kmあたり)		女性100人に対する 男の割合(人)
		男	女	計		世帯数	人口(人)	
昭和30年	8,526	19,702	21,478	41,180	4.83	62.8	303.2	91.7
35年	9,200	18,491	20,417	38,908	4.23	67.7	286.5	90.6
40年	9,267	16,814	19,212	36,026	3.89	68.2	265.2	87.8
45年	9,310	14,992	17,398	32,390	3.48	68.5	238.5	86.2
50年	9,464	13,965	16,330	30,295	3.20	69.7	223.0	85.5
55年	9,742	13,585	15,942	29,527	3.03	71.7	217.3	85.2
60年	10,031	13,438	15,747	29,185	2.91	73.8	214.8	85.3
平成2年	10,122	12,798	15,071	27,869	2.75	74.5	205.1	84.9
7年	10,261	12,664	14,842	27,506	2.68	76.3	204.9	85.3
12年	10,285	12,102	14,168	26,270	2.55	76.6	195.7	85.4
17年	10,177	11,536	13,536	25,072	2.46	75.8	186.7	85.2
22年	9,830	10,714	12,440	23,154	2.36	73.2	172.4	86.1
27年	9,196	9,922	11,276	21,198	2.31	68.5	157.9	88.0
令和2年	8,617	9,064	10,206	19,270	2.24	64.2	143.5	88.8

出典：「国勢調査」(各年 10月1日現在)

年齢別人口内訳



出典：令和2年「国勢調査」(令和2年10月1日現在)

統計から見た 阿久根市民の暮らし

人口 19,427人 一世帯あたり2.0人 (R3.9.30現在)	人口密度 1km² 144.7人 (R3.9.30現在)	出生 1ヶ月に7.3人 (R3年平均)	死亡 1ヶ月に30.5人 (R3年平均)
転入 1日に1.3人 (R3年平均)	転出 1日に1.9人 (R3年平均)	結婚 1ヶ月に4.6組 (R3年平均)	離婚 1ヶ月に2.6組 (R3年平均)
高齢化率 65歳以上 42.1% (R3.9.30現在)	医師(歯科医を含む) 市民355人に 1人 (H30.12.31現在)	ゴミ排出量(収集) 一世帯 1ヶ月に33.7kg (R2年度)	酒類消費量 大人1人あたり 10.5ℓ (R3年)
市職員数 市民93.4人に 1人 (R3.4.1現在)	消防職員数 市民502.8人に 1人 (R3.4.1現在)	警察職員数 市民449.2人に 1人 (R3.12.31現在)	救急車出動件数 1日に3.3件 (R3年平均)
市予算(一般会計) 1人あたり 75.62万円 (R2年度)	市税 1人あたり 100,970円 (R2年度)	火災発生件数 1ヶ月に1.4件 (R3年平均)	交通事故発生件数 1日に1.1件 (R3年平均)

あくね MAP



出水市

阿久根市

長島町

★あくねの七不思議の詳しい説明はP11を参照

宿

- ① 愛宕荘(あたごそう)【民宿】
新鮮活魚料理が自慢
阿久根市脇本8976 TEL:0996-75-0009
- ② 民宿大阪堂
阿久根北インターの近くにあり、長期滞在可
阿久根市折口3549-1 TEL:0996-75-3008
- ③ 民宿とまる
休憩・イベント会場・商談などのスペースにも最適
阿久根市折口1747-3 TEL:0996-72-1116
- ④ お宿みどこい
阿久根産木材を多用した省エネオーガニックホテル。
阿久根市赤瀬川1188番地5 TEL:0570-031-091
- ⑤ 塩屋ホステル
暮らすように旅をするをコンセプトにしている宿
阿久根市本町118番地 TEL:090-6778-0994

温泉宿

- ⑥ ペンションリバーサイドまるしん
便利な飲食街の中心にあり、1Fにカラオケも
阿久根市大丸町 3-8 TEL:0996-72-4071
- ⑦ イワシビル
空きビルをリノベーションしたおしゃれなホテル
阿久根市鶴見町 76 TEL:0996-73-3104
- ⑧ 民宿あくね
市街地に近く、魚釣りや潮渡しも紹介
阿久根市波留 6113-16 TEL:0996-72-0959
- ⑨ より処“きてん”
家族や仲間と集える京風町屋スタイルの貸切お宿
阿久根市大川 8201 TEL:090-6294-2247

日帰り温泉

- ⑩ ホテルABCパレス ビジネスホテルクアドーム
シェフの自慢料理と心の通うおもてなし
阿久根市赤瀬川 3122-1 TEL:0996-72-3731
- ⑪ 栄屋旅館
活魚料理と笑顔と元気で人情溢れる宿
阿久根市大丸町 94 TEL:0996-72-1431
- ⑫ ビジネスホテルロックスイン
好立地、ビジネス・観光等の拠点に
阿久根市港町 63 TEL:0996-73-1101
- ⑬ ひさご旅館
市街地の中心にある活魚料理の温泉宿
阿久根市港町 30 TEL:0996-72-1010
- ⑭ ぼんたん湯
旅館併設の温泉、温泉のみでもゆっくり楽しめます
阿久根市大丸町 94 TEL:0996-72-1431
- ⑮ きみよし温泉
県内屈指の強塩泉、県内でも2か所しか湧出していないラドンを含む放射能泉
阿久根市大丸町 60 TEL:0996-72-1174





2022 阿久根市勢要覧

発行日／令和4年3月

編集・発行／阿久根市

〒899-1696 鹿児島県阿久根市鶴見町 200 番地

TEL：0996-73-1211 FAX：0996-72-2029

ホームページ： <https://www.city.akune.lg.jp>

E-mail： info@city.akune.kagoshima.jp

